

世代を超えてスポーツを楽しむ

福祉スポーツ大会

10月28日、農村広場で「令和4年度南関町福祉スポーツ大会」が開催され、秋晴れのグラウンドで子どもや高齢者がスポーツを通じて交流を楽しみました。

南関町社会福祉協議会(佐藤安彦会長)が、スポーツを通じた体力の維持や健康への意識向上、参加者の親睦を深めることを目的に開催。南関こどもの丘保育園や身体障害者福祉協議会、延寿荘などから8団体約200人が参加しました。

当日は、紅白玉入れや人探し競争、菓子食い競争など計8つのプログラムを実行。笑福隊による日向ひょっとこ踊りや園児とトッパ丸による「花マルあっぱれトッパ丸」ダンスも披露され、会場を盛り上げました。

▶園児と交流するひょっとこ



▶会場を沸かせたモルックチャレンジカップ



からだを動かすきっかけづくりに

2022 なんかんスポーツDAY

10月30日、町防災広場でNPO法人A-lifeなんかん主催の「2022なんかんスポーツDAY」が開催され、町内外から集まった参加者が気持ちよく体を動かしました。

だれでも気軽に体を動かすきっかけづくりになればと、久留米大学や熊本障がい者スポーツ指導者協議会、元気だけんくまもん県プロジェクトなどの協力を得て開催。

会場では、バラスポーツの「ポッチャ」やゴルフ初心者でも気軽に楽しめる「スナッグゴルフ」をはじめ、障がいや年齢に関係なくだれでも参加できる「UDeスポーツサロン」、久留米大学学生考案の河童の格好でキュウリを背負ってバスケットをする「カッパスケ」など多種多様なスポーツを楽しみました。午前午後と行われた「モルックチャレンジカップ」では、子どもも高齢者も楽しく交流しながら、白熱した戦いが繰り広げられました。

▶左から森さん、佐藤町長、植田さん



長年の功績をたたえ感謝状を伝達

人権擁護委員法務大臣感謝状伝達式

9月30日付で人権擁護委員を退任した松本隆明さん(今)に、法務大臣から感謝状が贈られ、10月26日町役場で伝達式が行われました。式では佐藤町長から松本さんへ感謝状が伝達され、これまでの活動を労い、感謝の言葉を贈りました。

松本さんは平成25年7月から3期9年にわたり人権擁護委員として活躍。地域における人権啓発活動のほか「人権作文」や「人権の花運動」など多岐にわたり活躍し、教師としての経験も生かしながら積極的に人権啓発活動に取り組んできました。

松本さんは「人権相談では、しっかりお話を聞いて、親身になって向きあってきた。これからも町の発展のためにOBとして応援を続けたい」と話しました。

▶感謝状を受ける松本さん



ソフトテニス 西日本大会出場

森・植田ペア

10月13日、南関ジュニアに所属する6年生の森勇晴さんと植田康介さんが町長を訪れ、10月15日に香川県で開催された第16回西日本小学生ソフトテニス選手権大会へ県代表として出場することを報告しました。

2人は9月に開催された熊本県予選大会に個人戦ダブルス(男子)で出場し、見事3位入賞を果たして西日本大会への切符をつかみました。

5年生からペアを組んでいる2人の強みは、チームワークと体格を生かしたパワーあふれるプレー。2人は「初めての西日本大会なので、試合を楽しみながら、悔いの残らないようがんばりたい」と意気込みを語りました。

南関第二小学校ワークショップ

「IOC Young Leaders × Panasonic KWN SDGs Online event series」

9月30日、南関第二小学校(隈部孝二校長)で国際オリンピック協会(IOC)協力のパナソニック主催イベントであるIOCヤングリーダーズ特別ワークショップが開催され、5年生15人が韓国の女子アイスホッケー選手サンエン・リーさんとオンラインで交流しました。

起業家としても活動するリーさんは、すべての人がスポーツに親しみ活躍できる社会実現を目指しており、SDGsの一つである「ジェンダー平等の実現」に向け同国で進められている取り組みを児童へ紹介。児童からは、学校や地域紹介を含めながら、映像とともに自己紹介を英語で披露しました。その後、SDGsのテーマにふれながらリーさんと協力して「届けわたしたちの想い!」のメッセージ映像制作に取り組み、児童は笑顔で楽しみながら貴重な時間を過ごしました。二小のホームページからご覧になれます。

▶オンラインで交流する様子



映像制作を通じてSDGsを学ぶ

KWNワークショップ

9月30日、南関第二小学校(隈部孝二校長)の6年生はビデオ制作についてのノウハウを学ぶ「KWNワークショップ」に取り組み、映像制作の第一線で活躍するプロを講師に映像制作を学びました。

KWNとは、子どもを対象とした映像制作支援プログラムの中で、映像制作を通じて子どもの想像力の育成や人間的成長の実現を目指しています。児童は、監督やカメラマン、音声さんなど映像制作に携わるそれぞれの役割に分かれ、いま取り組んでいることがSDGsにどう関係しているかなどを意識しながら、30秒の映像制作に挑戦しました。

体験した児童は「機器の使い方など難しかったが、一人ひとりに重要な役割があり、映像を完成させるためにはみんなのチームワークが大事だと感じた」と話しました。

▶映像制作に挑戦した6年生



大きくなって帰ってきてね

カニの放流

10月20日、南関第四小学校(浜崎泰史校長)の4年生15人が、同校近くを流れる内田川でカニの放流体験を行いました。

自然や命の大切さを学んでもらおうと開かれた同体験では、はじめに県北広域本部農林水産部やエコアくまもとの職員が、図表や写真を用いてカニの生態や川の環境などを説明。その後、菊池川漁業協同組合が用意したモズガニ20キ(約500匹)を、児童は元気いっぱいにつつよう応援しながら放流しました。

初めてカニの放流を体験した児童は「思っていたよりカニが大きくてびっくりした。これから元気に育ってほしい」と話しました。

▶優しくカニを放流する児童



▶賞を獲得した畑中さん



牛のグランドチャンピオンに輝く

畑中正明さん

10月24日～28日、県産和牛の肉質を競う県肉畜共進会が菊池市の熊本畜産流通センターで行われ、畑中正明さん(宮尾)が黒毛和種の部門で最高賞のグランドチャンピオンに選ばれました。

県畜産農業連合会が肉質改善や消費拡大を目的に開催する同大会では、褐毛和種と黒毛和種の2部門に県内生産者が31頭を出品。日本食肉格付け協会の職員が、枝肉の肉付けや脂肪(サシ)の入り具合などを審査しました。

畑中さんは「系統や状態が良い牛を探し、たくさん食べて大きくなるよう、牛の健康面にも気を配りながら育てています」と飼育へのこだわりを話しました。